

マツダ真空管 6BE6

用途構造 5 格子変周管

特性概要 6BE6 はスーパーヘテロダイン受信機等で局部発振と混合の両作用を一つの球で行えるようにしたものであります。特に発振が安定で全波受信機等の如く短波帯に好都合です。

カソード 傍熱型 (オキサイド被覆・等電位)

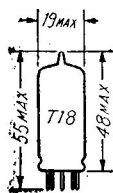
ヒーター電圧 6.3V

ヒーター電流 0.3A

バルブ T-18

ベース ミニアチュア・ガラス・ボタン・7ピン

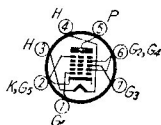
外形



電極接続

- 1 オッシレーター
グリッド
- 2 カソード・サ
プレッサー
- 3 ヒーター
- 4 ヒーター
- 5 プレート
- 6 スクリーン
- 7 グリッド

ベース接続



電極間静電容量 (概略値) (外部シールドなし)

グリッドと他全電極間 (高周波入力) 7.0pF

プレートと他電極間 (混合部出力) 8.0pF

オッシレーター・グリッドと他全電極間 (発振部入力) 5.5pF

グリッドとプレート間 最大0.30pF

グリッドとオッシレーター・グリッド間 最大0.15pF

オッシレーター・グリッドとプレート間 最大0.1pF

オッシレーター・グリッドと他電極間 (カソードとサップレッサーを除く)	2.7pF
オッシレーター・グリッドとカソード (サップレッサーを含む) 間	2.8pF
カソード (サップレッサーを含む) 他電極間 (オッシレーター・グリッドを除く)	15pF

最大定格

ヒーター電圧	5.7Vより6.9V
プレート電圧	最大300V
スクリーン電圧	最大100V
スクリーン供給電圧	最大300V
グリッド電圧	最大0V
プレート損失	最大1.0W
スクリーン損失	最大1.0W
全カソード電流	最大14mA
ヒーター・カソード間電圧	最大90V

動作例

他励の場合

ヒーター電圧	6.3V	6.3V
プレート電圧	100V	250V
スクリーン電圧	100V	100V
グリッド電圧	-1.5V	-1.5V
オッシレーター・グリッド抵抗	20K Ω	20K Ω
プレート抵抗	0.5M Ω	1.0M Ω
変換コンダクタンス	455 μS	475 μS
変換コンダクタンス (グリッドに-30Vを与えた場合)	約4 μS	4 μS
プレート電流	2.6mA	2.9mA
スクリーン電流	7.0mA	6.8mA

オッシレーター・グリッド電流…………… 0.5mA 0.5mA
 全カソード電流…………… 10.1mA 10.2mA

発振部特性

グリッド電圧…………… 0V
 オッシレーター・グリッド電圧…………… 0V
 プレート電圧 (スクリーンをプレートに結ぶ) …… 100V
 カソード電流…………… 25mA
 相互コンダクタンス…………… 7250 μ S
 増幅率…………… 20
 グリッド電圧 (プレート電流約 10 μ A の時) …… -11V

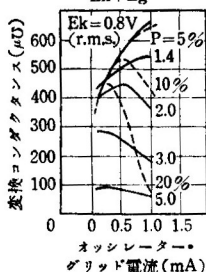
使用法

6BE6

(自励振)

プレート電圧=250V
 スクリーン電圧=100V
 グリッド電圧=-1V
 オッシレーター・グリッド
 抵抗=20K Ω

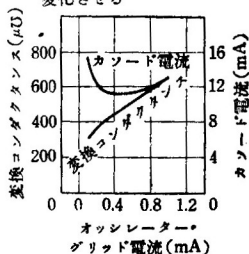
$$P = \frac{E_k}{E_k + E_g} \times 100\%$$



動作特性

(他励振)

プレート電圧=250V
 スクリーン電圧=100V
 グリッド電圧=-1.5V
 オッシレーター・グリッド
 抵抗=20K Ω
 オッシレーター・グリッド
 電流は発振電圧を調節に
 変化させる



注 自励の場合に於ける E_k とは発振コイル中カソードとアース間の電圧であり E_g とはカソードとオッシレーター・グリッド間の電圧であります。